

その他災害編③「避難警戒レベルと雨に関する情報」

○「避難警戒レベル」に注意

風水害、土砂災害の発生が予想される場合、状況に応じて下記の警戒レベルが発令されます。地域の方々にも声をかけながら、それぞれの警戒レベルに合わせてしっかりと行動しましょう。

災害の危険度	警戒レベル	住民がとるべき避難行動
高	5	災害発生又は切迫 千歳市が発令 緊急安全確保
警戒レベル4までに危険な場所から必ず避難！		
	4	災害のおそれ高い 千歳市が発令 避難指示
	3	災害のおそれあり 千歳市が発令 高齢者等避難
	2	気象状況悪化 気象庁が発表 大雨・洪水・高潮注意報
低	1	今後気象状況悪化のおそれ 気象庁が発表 早期注意情報

※身の危険を感じたときは警戒レベルに関わらず避難してください。また、必ずしもレベル1から順に発令されるとは限りません。
※「警戒レベル5緊急安全確保」が発令された場合は、これまでに経験したことのないような、危険が差し迫った異常な状況にあります。ただちに「命を守る行動」をとってください。

！ 警戒レベル3や4が出たら、危険な場所から避難しましょう

！ 「避難」とは「難」を「避」けることです
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません

！ 避難先は小・中学校、公民館だけではありません
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう

防災ひとくちメモ⑤

冠水している道路に
潜む危険とは？

冠水している道路は、マンホールや側溝のふたが外れて転落する可能性があります。やむを得ず冠水箇所を移動する場合は、傘などで地面を探りながら移動しましょう。

防災ひとくちメモ⑥

浸水時の歩行に注意！

浸水した場合、水の流れがなくても歩ける深さの目安は、ひざ下(約30cm)くらいまでです。水の深さが腰まであったり、浅くても水の流れが速い場合は無理をせず、高い場所で救助を待ちましょう。

避難警戒レベルや雨に関する情報を確認し、災害への備えを行いましょう。

○雨に関する情報

▶台風について

30年間(1991～2020年)の平均では、年間で約25個の台風が発生し、約12個の台風が日本から300km以内に接近し、約3個が日本に上陸しています。発生・接近・上陸ともに、7月から10月にかけて最も多くなります。



▶集中豪雨について知っておきましょう

近年は、全国各地で下水道の雨水排水能力を超えるような豪雨が発生しています。河川や下水道配管は、激しい雨やまわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態となります。自分のいる場所で雨が降っていないなくても、上流で降った雨が流れてきて、下流の地域では危険な状態となる場合がありますので、注意が必要です。

！ 防災ひとくちメモ⑦

線状降水帯って何？

「次々にたくさんの積乱雲が同じ場所ででき続ける」という条件が揃うと、積乱雲が線状に並んだ塊になります。雨雲が消滅せず、長時間にわたって同じ場所で激しい雨を降らせ続けるため、大きな災害を引き起こします。

